

事例名：鳥取県木材工業研究会による情報・技術交流の取り組み

機関及び連携機関

- 鳥取県木材工業研究会
- 国立大学法人鳥取大学
- 鳥取県産業技術センター
- 鳥取県林業試験場
- 鳥取県家具工業組合

功労者

- 鳥取県木材工業研究会 会長 作野友康

事例の概要

- 鳥取県木材工業研究会(通称:木工研(もっこうけん))は、国立大学法人鳥取大学、鳥取県工業試験場、鳥取県家具工業組合などが協力して、昭和39年4月18日に活動を開始しました。
- 設立の趣旨は、研究集会や会誌の発行を行うことにより、鳥取県内の木材工業の生産技術や研究に関する者の交流を図り、情報交換や技術の向上及び普及を目的としています。
- この会は、平成17年に設立40周年を迎えました。例会(勉強会)の開催は、228回を数え、会誌である「鳥取木工研」は第29号を発行しました。企業会員のジャンルは建築、土木、製材、塗料など幅広く、この会を通じて連携を深め、鳥取県内の木材工業の発展に貢献しています。

(特筆すべき事項)

- 40年という長きにわたり「産官学連携」を実践し続け、地域の木材工業の発展に寄与してきたことは、中国地方でも他に例を見ない先駆的な活動です。
- 会誌「鳥取木工研」は、全国でも珍しい産官学連携による『地方発の木材関係技術情報誌』として創刊され、40年経った現在も会員の貴重な情報発信源としての役割を担い、発行を続けています。
- 鳥取県産業技術センターと鳥取県林業試験場という工業系と農林系の公設試験研究機関が、部局の枠を越えてこの研究会をコーディネートし、会の維持・発展に貢献してきたことは、これからの地方行政活動にとっておおいに参考となる取り組みです。

具体的成果等①

➤ 鳥取県内のA製材所は、早くから木材の高次加工に取り組むたいと考えられました。A社は、木材の高次加工に取り組むための最も基礎的な技術である木材乾燥と塗装技術に関して、産業技術センター(旧 工業試験場)の協力を得ながら、乾燥機の開発、内装用壁材等の開発に取り組まれました。地道な取り組みの結果、平成9年から平成16年の間、高次加工製品が、売上げの8割を占めるに至り、製材品の需要が減少する中、業績を伸ばしておられます。



開発された内装材

➤ 鳥取県内のC製造会社は、平成12年から県産スギ材を使ったパネル材の生産を行っています。含水率や強度性能のばらつきが大きいスギ材を使って、品質の安定した製品を生産・提供するため、木工研会員である林業試験場や産業技術センターのスタッフ・設備を有効に活用し、乾燥や接着など生産現場の改善・品質向上に努めておられます。性能データの蓄積にも熱心に取り組む、顧客からのデータ要求に対しても的確に対応し、さらなる品質向上に役立てておられます。

➤ 鳥取県内のB建築会社は、木材を活かした住宅づくりに取り組むたいと考えられました。B社は、木材加工の最も基本的な技術である木材乾燥について産業技術センター(旧 工業試験場)の協力を得ながら、自らが乾燥機をつくり、自社が建設する住宅に使う木材の乾燥に取り組まれました。さらに、木材接着の技術について国立大学法人鳥取大学の協力を得ながら、針葉樹小径材より最も効率良く生産した集成材を用いた独自の住宅工法を確立され、全国約50社に及ぶ加盟店とともに、業績を伸ばしておられます。

独自工法で建設された住宅



製品の使用事例



具体的成果等②



会誌「鳥取 木工研」



設立40周年記念例会には、多くの方にご出席いただきました。



例会(勉強会)様子

会員内あるいは招へいた講師により熱心に勉強会が開催されます。